

授業科目名	【Gカリキュラム】 プレゼミⅡ 【EFカリキュラム】 プレゼミⅡ	必修	開講年次	【G】1 【EF】1	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	法学の基礎知識を修得する			担当者	小林 伸一	
授業概要	<p>【概要】 担当者の指導を通して法学における基礎概念や基礎理論を受講生全員が身に着ける。</p> <p>【到達目標】 法学の基礎知識を受講生全員が修得する。</p>					
履修条件	特になし					
教科書・参考書	<p>【教科書】 必要に応じてレジュメや資料を配布する</p> <p>【参考書】 田中成明『法学入門 新版』（有斐閣 2015年） 2019年度版の六法</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・法の存在形式(法源)、法の規範的機能、法の社会的機能、法の解釈という4つのテーマについて、担当者がまず解説し、それを基に受講生は質問や討議を行っていく。 ・受講生は、毎回、相当量のノートの執筆求められる。 ・上記のノートを定期的に担当者に提出することが求められる。 ・最終講義日に理解度と応用力をみるため試験を実施する。受講生は全員、これを受験しなければならない。 					
予習復習内容	<p>復習：上記の4つのテーマについて、その週に担当者が解説した内容や受講者間の質疑応答をノートに採り、これを翌週までに熟読する。</p> <p>予習：担当者は、その週の最後の時間帯に、翌週に取り上げる事柄を提示する。これを基に、受講生全員は、文献やインターネットによって調査する。</p>					
評価方法	報告や質疑応答の内容及びノートの記述内容、並びに期末試験の成績(95%)と受講態度(5%)を勘案して総合的に評価する。					
評価基準	本演習の趣旨・内容につき、これを十分に把握し、そのことが報告や質疑応答に顕著に反映されていると判断できる受講生は、「S」または「A」とする。上記について必ずしも十分とはいえない受講生は、その程度に応じて「B」または「C」とする。演習内容に対する理解が明らかに不十分で、かつ報告や質疑応答が明らかに不備である受講生は、その程度に応じて「D」または「E」とする。正当な理由なく、ノートの提出を怠り、かつ期末試験を欠席した受講生は、「F」とする。					
その他	<p>私語やスマートホンの使用は厳禁とする。</p> <p>※G 刈：法【必修】 刈【必修】 情【必修】 / EF 刈：法【必修】 刈【必修】 経【必修】</p>					